

繪
智
慧
の
環

二編
下
詞
の
卷

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

URUKAWA

ちるのま

詞の巻

二編下

詞の巻

母韻	子韻	母韻	子韻
と	と	と	と
と	と	と	と
と	と	と	と

韻	韻	韻	韻
の	の	の	の
の	の	の	の
の	の	の	の

うまき のりま いほのこゑは母の
 ごんごん 四十五おんを子のごんごん。こぼり
 母韻 子韻 子韻 子韻 子韻 子韻
 とん 音と つか つか つか つか つか つか
 ちん ちん

百韻
 二編



不^レいんのこと^ヲを單音^トといひ。志^レいん
 のことを複音^トといふ。その單^レといひん
 の。複^レ音^トはふんのと云ふことなり。不^レいん
 はいんのこと。志^レいんもふんのこと。志^レいん
 あり

このひんふんと云ふことなり。たゞしや
 不^レいん。まがア^レイ^レウ^レエ^レオ^レをひ^レつ^レく^レあ^レり
 といふことなり。ア^レとウ^レをひ^レつ^レく^レア^レは
 ことなり。イ^レはウ^レをひ^レつ^レく^レイ^レの^レことなり。ウ^レ
 はエ^レをひ^レつ^レく^レウ^レの^レことなり。エ^レは
 オ^レをひ^レつ^レく^レエ^レの^レことなり。オ^レは
 不^レいんをひ^レつ^レく^レオ^レの^レことなり。不^レいん
 はふんをひ^レつ^レく^レ不^レいんの^レことなり。

いんふんあり。あ^レりし^レあり
 不^レいんカ^レキ^レク^レケ^レコ^レをふ^レく^レト^レ云^レふ
 ことなり。カ^レはア^レイ^レをひ^レつ^レく^レカ^レは
 イ^レをひ^レつ^レく^レイ^レの^レことなり。イ^レは
 ウ^レをひ^レつ^レく^レイ^レの^レことなり。ウ^レは
 エ^レをひ^レつ^レく^レウ^レの^レことなり。エ^レは
 オ^レをひ^レつ^レく^レエ^レの^レことなり。オ^レは
 不^レいんをひ^レつ^レく^レオ^レの^レことなり。不^レいん
 はふんをひ^レつ^レく^レ不^レいんの^レことなり。

不^レいん
 一
 二

おこし屋のふた

○おこし屋のおこし屋のこと

おこし屋 小おこし屋 おこし屋とひらひら

おこし屋 小おこし屋 ひらひらひと まさき ひらひら

のまのふのま 一ツおこし屋 おこし屋 大おこし屋

金時 東京 富士山 利根川 おこし屋のこし屋

おこし屋 小おこし屋 おこし屋のひらひら まさき ひらひら

おこし屋 小おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

女おこし屋のこし屋

○おこし屋のふた

おこし屋のふた 大おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

おこし屋のふたをひらひら おこし屋

大おこし屋のこと

おこし屋 小おこし屋 おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

おこし屋 小おこし屋 大おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

おこし屋 小おこし屋 大おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

おこし屋 小おこし屋 大おこし屋 大おこし屋 大おこし屋

とあると、いふ、こゝにあり、
みぎの、みつの、とあるを、
第一人称、第二人称、

第三人称 とあると、

第一人称 をみづるの、とあるあり、

源義経、其の、有る、まうし、改言、意趣、ハ

たとの、ごき、みづる、まう、おを、いふ、ま

その、おを、第一人称の、おこと、いふ、と、いふ、

おを、この、義経、を、おこと、第一人称

の、有る、有る

たを、まう、まう、有る、臣、准、と、いふ、おを

おま、まう、まう、おま、何の、誰、と、いふ、

おま、おま、第一人称の、有る、あり

第二人称、おま、おま、いふ、あり、

おま、おま、おま、いふ、ま、ま、

おま、おま、おま、いふ、た、た、

おま、おま、おま、いふ、おま、おま、

第二人称、おま、おま、あり

おま、おま、おま、何の、誰、と、いふ、

おま、第二人称の、有る、あり

第三人称、おま、おま、あり

おま、おま、おま、あり

権環 二

清少納言がかけた也

清少納言と云ふる也

あり

よみて ちかづきの ちかづくと ひろく ちかづいて

と云ふ人の ちかづ。ひろくや ちかづか ちかづ

ひろくを ちかづ。ちかづ 第三人称 の

ちかづと ちかづ

性のこと

性 ちかづ ちかづま ちかづま ちかづ ちかづ

ちかづま ひろくや ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま ちかづま

ちかづま。ちかづま ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ちかづま ちかづま。ちかづま ちかづま

ひたり 月 一 月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

男性の 性を 入 あらう

男

夫

父

祖父

伯父

兄弟

息男

姓男

女

姉

母

祖母

伯母

姉妹

息女

姓女

僧 帝 男 僕

比丘 女 婢

ついでに 男女を くらべて みる

ひたりの 性を

女性の 性を

男性の 性を

北牛 北馬

牡牛 牡馬

北イヌ犬
北ネコ猫

牡ウシ天
牡ウシ猫
雄オス

メ

オス

ウツ

オス

男子オトコと陰カゲとし。男オトコを陽カゲとオスと
女子メと陰カゲとし。女メ性カゲのオスを陽カゲとオスと
乃ナ男子オトコとオスとし。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと
てテいイ男子オトコとオスとし。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと

此コノ男子オトコとオスと。後ノチ男子オトコとオスと。男子オトコ性カゲのオスを陽カゲとオスと
女子メ性カゲのオスを陽カゲとオスと。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと
てテいイ男子オトコとオスとし。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと

この不フ男子オトコ性カゲのオスを陽カゲとオスと
女子メ性カゲのオスを陽カゲとオスと。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと
てテいイ男子オトコとオスとし。日ヒをオスと
いイ以イ脚カを太陰オウインとオスとし。男オトコ性カゲとオスと

七世と云ふは格より第一格を以て日大
 陽と云ふはやうに以て大陽と第四格を
 獨立格とせしむるたるの格と云ふは
 一の格の二の格ハ一の格の二の格
 なくかゝる格を以てかくあるものあり
 太人ハ 太郎 太人と云ふは二の格
 二の格の二の格左郎と云ふは二の格
 ありたるは二の格の二の格を以て
 二の格たるの格なり
 かく一の格なるに 太郎 太郎 や、二の格

一の格の二の格を以て二の格と云ふは
 二の格の二の格を以て二の格と云ふは
 第一格の二の格の二の格の二の格
 第二格の二の格の二の格の二の格
 第三格の二の格の二の格の二の格
 第四格の二の格の二の格の二の格
 第五格の二の格の二の格の二の格
 第六格の二の格の二の格の二の格
 第七格の二の格の二の格の二の格
 第八格の二の格の二の格の二の格
 第九格の二の格の二の格の二の格
 第十格の二の格の二の格の二の格

孝行のさかし

凡世間小い人。貴と云く賤と云く
 父母の... 人曰あるは... 父母
 を我身の出来し... 本... 本
 をば... 忘る... 況も... 養育
 乃... 海... 今... 本...

此... 父母の恩を多く... 母
 先... 懐胎... 母
 我... 生... 知雅の...
 母... 小... 晝夜... 辛苦を...
 常... 風... 抱...
 少... 痛... 煩... 神...
 祈... 醫... 我...
 不... 思... 子... 乃...

大い 報じ 修く 奉る 孝行 一
 養ふ 為る 在る 其 孝行 一 以て
 貧富 貴賤 と 不 同 一 以て
 父母 の 衣食 を 結構 せしむ
 以上 在る 行 孝 一 父母
 の 飽 煖 存す 孝 行 孝 行
 下 渡す 大 了 剛 不 孝 行 孝 行
 孝 行 孝 行 孝 行 孝 行 孝 行
 寝興

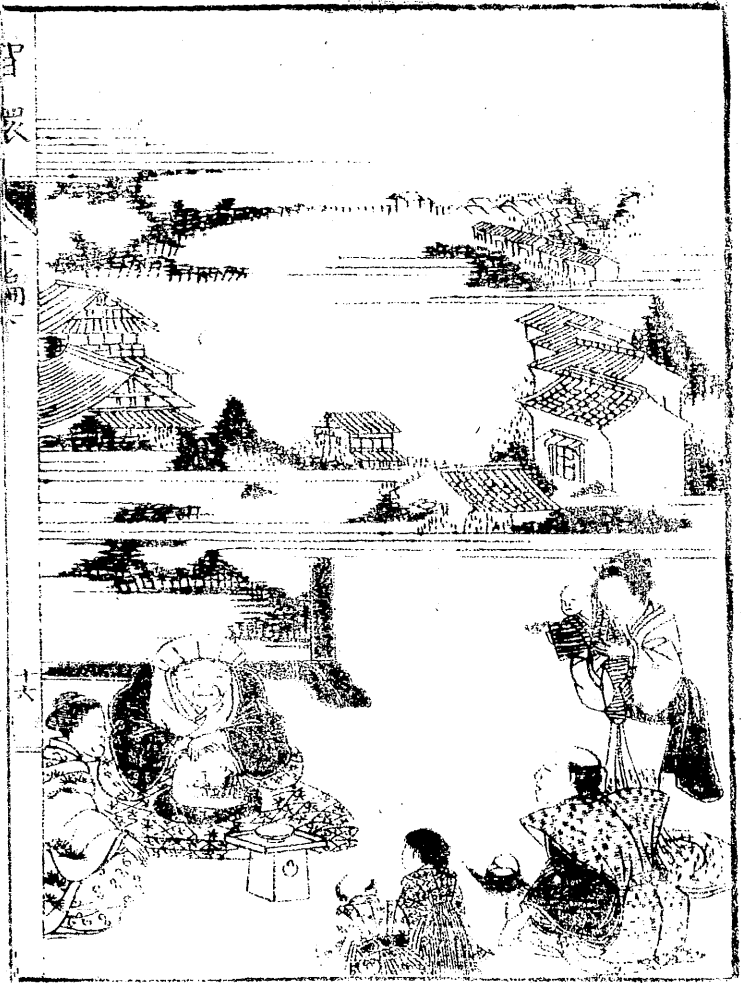
小 女 板 の 旁 朝
 省 了 父母 孝 行
 痛 む 晝 夜 帯
 孝 行 他 事 を
 孝 行 看 病 し 醫 薬
 の 孝 行 小 女 孝 行
 盡 孝 下 孝 行 孝 行
 不 心 濁 辱 孝 行 孝 行



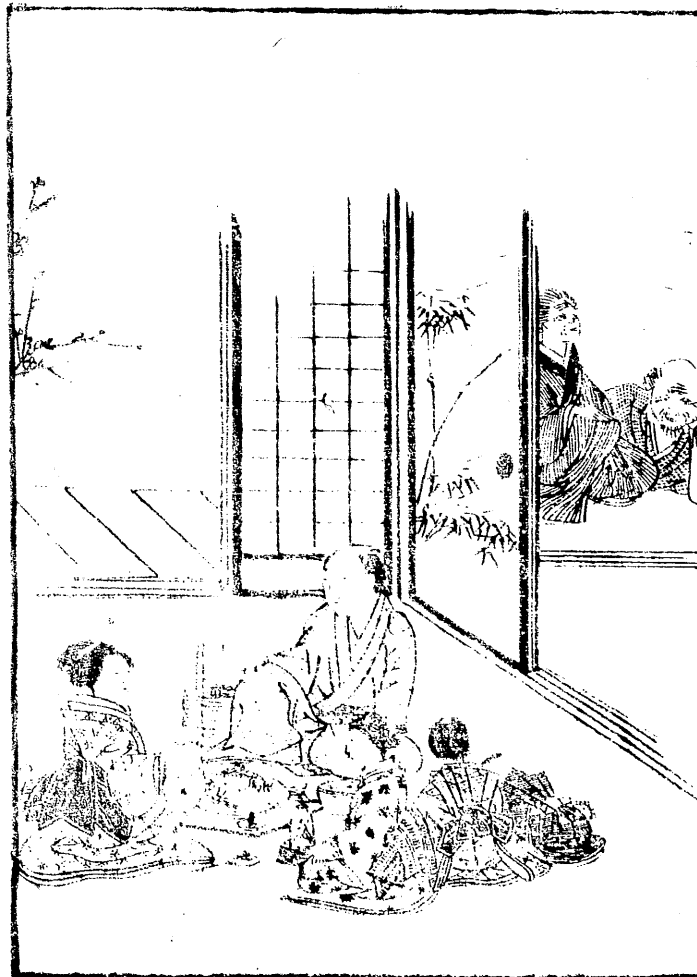
孝 行 一 編 下

五

父母乃身を孝養はし其心を
 安せざしを也。大に孝と
 べし。何事も父母の教訓をた
 世法をおんじ。よく身を守る家
 をたよりべし。其子の心を
 安んずるを也。父母は心中に
 の安堵を以てし。孝を養ふと
 其心を安んずるを也。

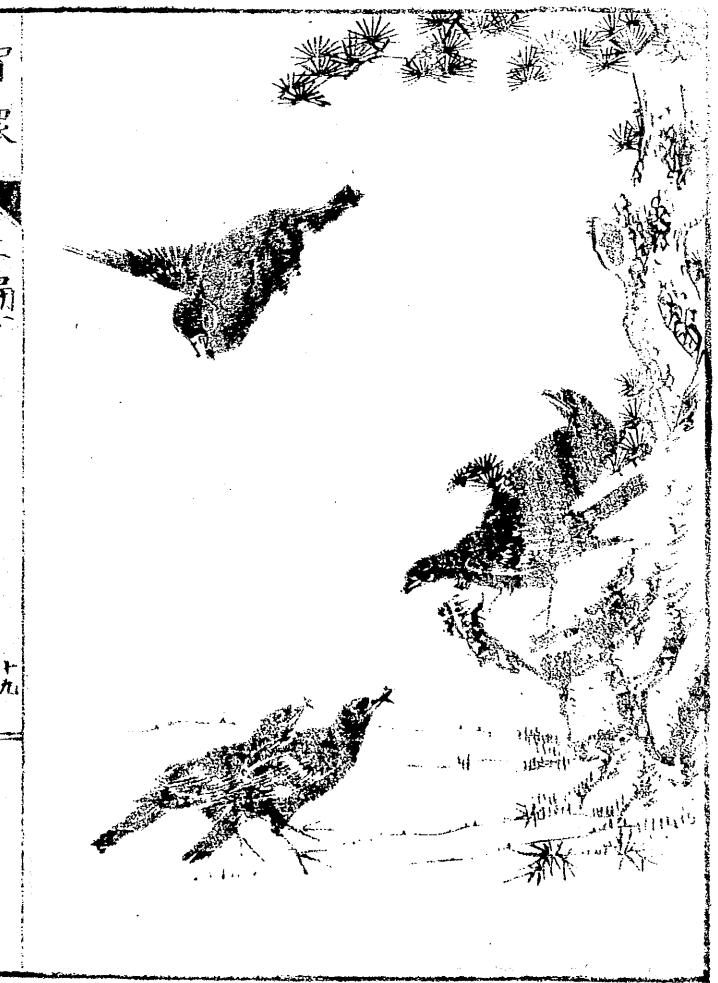


孝養



小わ人ぞ。以つとて、
 幾つとねふ。其言葉申入心小
 序れ也。巴ハ父母ヲをうま心ヲ
 たりねる。こを。ふふも。心ヲ居ル心ヲ
 家ノ心ヲを。我身ニ十四五歳ノ士
 下は妻ヲや。以つとて。子ノ
 以つとて。この時ニ我ノ心ヲ
 養育シせし人ヲを。我ノ心ヲ

介抱せし人を何人も慕ふ。然るに
 父母一人の妻を移りし一帯也
 あり。養ひ給ふ鳥の鳥少く反哺少く
 親一人を養ふ人少く。可なり。
 人として不孝なる人少く。人少く
 本心養ふ人少く。論議少く。世に
 たり。世に可なり。世に可なり。世に
 可なり。



智叟

一編

十九

この文章を、おこなをせ、おまの、おまの、
 詞の巻、この文章、おまの、おまの、
 有して、おまの、おまの、
 あり、おまの、おまの、
 あり

三編下巻

明治四辛未年二月

官許

古川氏藏



岡田屋

賣知所

嘉七